

手をつなごう

平成18年12月11日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 24

第4回専門家チーム・巡回相談員 連携会議開催！12月5日



まず最初に言語指導の専門性を生かした支援についてケース報告をいただきました。巡回相談員それぞれの専門性をよく知り、時には応援を頼みながらチームとして支援していく大切さを再認識しました。

その後グループに分かれて、アドバイスが欲しい事例や課題と思われることを話し合いました。

- ・保護者と学校側の間に立ってしまい、難しさを感じるケースがある。
- ・今までの情報や検査結果が生かせていない場合もあるの で、巡回相談員が交通整理をすることが必要。
- ・HOW TOだけでなく、応用行動分析などの考え方を伝え、再度子どもを見直し、気づいて もらえるような支援が有効であった。
- ・支援に出る曜日を決めておくなど、支援に出やすい体制づくりが必要。
- ・特別支援教育の理解がまだまだ不十分である。

などなど、情報交換も含めて、有意義な時間となりました。



子どもの実態把握

教育支援を行う際、行動観察や聞き取りの他に、心理検査によって対象の子どもの客観的な情報を得ることも大切です。心身の発達の状態や行動の特徴を知って支援の糸口となるようなポイントを探ったり個別の指導計画の作成に生かしたりします。

そこで、何回かにわたって心理検査を紹介したいと思います。今回は、比較的实施が簡単な「新版 S-M社会生活能力検査」について紹介します。



【S-M社会生活能力検査】

目的：社会生活に必要な基本的な生活能力の発達を明らかにします。知的能力とは独立した社会適応能力の測定をします。発達に遅れのある子どもたちだけでなく、通常の発達の子どものたちにも適応可能です。

所要時間：約20分

適応年齢：乳幼児～中学生

実施方法：子どもの日常をよく知っている保護者や教師が、質問項目に回答を記入します。

内 容：身辺自立（衣服の着脱・食事・排泄などの身辺自立の生活能力）

移動（自分の行きたいところへ移動するための生活行動能力）

作業（道具の扱いなどの作業遂行に関する生活能力）

意志交換（ことばや文字などによるコミュニケーション能力）

集団参加（社会生活への参加の具合を示す生活行動能力）

自己統制（自己の行動に責任をもって目的に方向付ける能力）